



西洋に開かれた、日本唯一の窓口「出島」。

日本と世界をつないだ扇型の人工島・出島

1550(天文19)年のポルトガル船の平戸来航により、日本と西洋の本格的な交流が始まりました。1636(寛永13)年に築造された「出島」には、その後、オランダ東インド会社の商館が置かれ、最新の海外情勢や西洋の文物が日本へ持ち込まれました。同時に、日本の情勢や文物が西洋に発信され、江戸時代の日本と西洋を結ぶ唯一の窓口として、歴史的な役割を果たします。1823(文政6)年には出島のオランダ商館医としてシーボルトが来日。長崎奉行所の許しを得て、診療所と医学教室を兼ね備えた「鳴滝塾」を開きました。

日本が変わる大転換期 長崎の地には、重要な人物、出来事、続々

江戸幕府はペリーの黒船来航による開国後、1858(安政5)年には下田・函館に加え、長崎を含む四つの港を開く条約を締結し、外国人居留地を設置しました。多くの外国人商人が居住するようになる中で、英国商人グラバーは1859(安政6)年に長崎へ来航し、その2年後、大浦地区に商会を設立。幕府や諸藩に西欧の最新の文物を売り込むかわり、炭鉱経営、修船事業なども成功し、晩年は三菱グループの基盤をつつた岩崎彌太郎にも協力しました。また、1865(慶応元)年に長崎で日本初の商社といわれる亀山社中を結成していた坂本龍馬は、グラバーから薩摩藩名義で武器や蒸気船を購入。長州藩へ売買することを仲立ちし、倒幕の原動力となる薩長同盟の契機を長崎でつくりました。

The History of Nagasaki ②

Dejima & the End of the Edo Period



1. 写真左●寛文長崎町図屏風(部分)・1673(寛文13)年当時の長崎を描いたもの。西澤との唯一の窓口だった扇型の人工島「出島」も描かれています(長崎歴史文化博物館 蔵) 2. 坂本龍馬 わずか33年の短い人生の中、近代日本の幕開けのために奔走した幕末の志士。長崎で最初に拠点を構えた「亀山」と、結社を意味する「社中」を合わせて亀山社中を創設しました(長崎歴史文化博物館 蔵)



3. 海援隊/海運と貿易のための結社。その前身は、坂本龍馬が長崎で結成した「亀山社中」。龍馬が隊長となり、グラバー商会などの取引で利益を得ながら国事に奔走。三菱グループの基盤をつつた岩崎彌太郎やのちの外務大臣 陸奥宗光なども所属していました 4. トーマス・ブレイク・グラバー/幕末から明治初期の長崎で造船や探炭など幅広い事業を展開し、日本の近代化にも大きく貢献しました(長崎歴史文化博物館 蔵) 5. フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト/医学に関する高い技術と知識が評価され、出島から出て診療や講義をすることが認められていた医師。日本人妻と娘に恵まれましたが、国外持ち出し禁止の資料が見つかり、国外退散となりました(長崎歴史文化博物館 蔵)